

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872001284		
法人名	東成産業株式会社		
事業所名	グループホームいちさと筑波	ユニット名(山吹)	
所在地	茨城県つくば市小和田145番地		
自己評価作成日	令和 4年 8月 23日	評価結果市町村受理日	令和 4年 12月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然、四季を感じていただけるよう、中庭にはブルーベリー、かりん、柿等が植えられています。その人らしく穏やかに生活できるよう笑顔を中心、スタッフ全員でサポート、取り組みをしています。家庭的な雰囲気の中、一人ひとりの思いを大切に、日常的には散歩、外気浴、ドライブ等の外出や、行事を企画し、楽しく過ごしていただけるよう心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0872001284-00&ServiceCd=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は筑波山を望む田園風景の広がった閑かな環境にある。「こどもを守る110番の家」や「認知症よろず相談所」の設置にて近隣の住民との繋がりもあり、事業所で提供するお米は地元の農家の方から購入している。管理者と職員は利用者と近い距離で寄り添いアットホームな雰囲気の中で、利用者一人ひとりに合った言葉かけを行うことで家庭の延長に繋がるよう支援している。管理者と職員は互いに負担のない範囲で勤務体制の調整を行い、コロナ禍での支援に取り組んでいる。また、施設長や管理者に話がしやすく風通しの良い職場環境である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和4年10月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で共有できるようユニット、事務所、玄関に掲示し、実践に努めている。カンファレンスを通し、徹底するよう努めている。	月1回の職員会議や朝・夕礼後のミニカンファレンスで話し合い共有している。利用者と近い距離で寄り添ったアットホームな雰囲気の中で利用者の要望を最大限に聴き、汲み取る努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事務所のイベント、消防訓練をお知らせし、参加、見学できるよう、地域との交流を図っている。現在はコロナ禍で難しい状況にあり、数ヶ月に1回程度、施設の状況報告を行っている。	「認知症よろず相談所」を設置し地域の方が相談できるようにしたり、小学校の依頼で「子どもを守る110番の家」になっている。現在は近隣の方からお米を購入したり、家族等から野菜のおすそ分けがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症よろず相談所の設置で、相談できるよう取り組んでいる。子供を守る110番の駆け込みの家になっており、地域の方々にお役に立てるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、自治会代表者、民生委員、市職員などの方々に出席いただき、取り組み、活動予定を報告している。会議で出た意見をサービスの向上に生かしている。現在はコロナ禍のため、施設の状況報告のみ行っている。	コロナ禍のため、内部職員のみで開き、結果を手渡しや郵送で委員に報告するのみとなっている。委員からの意見を得ることが難しくなっている。	運営推進委員からの意見があがりやすい方法や手段の検討を行い、より良い運営に繋げて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所からの情報を得たり、意見交換を行い協力関係を築いている。担当者と定期的に報告・相談を行っている。	管理者は介護保険の更新等の相談等で窓口を訪問し相談や情報交換をしている他、生活保護の利用者の相談に窓口を訪問する等信頼関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や研修に参加し、学んでいる。マニュアルも作成している。	職員が共通の意識を持つために管理者は職員一人ひとりと話し合う機会を作り、カンファレンスでも意見を聴くようにしている。市の資料を基に3か月に1回研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加している。玄関にポスターを貼り、常日頃から職員全員が意識できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修に参加し、知識や情報等を習得、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不安や疑問があれば納得されるまでさらに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談窓口の設置等から、ご本人やご家族の要望を運営に反映している。また、コロナ禍が収束したら、運営推進会議にご参加いただきたいと考えている。	面会時や支払いで来訪したときに話を聞いている。家族等からの意見は管理者や施設長が聴き職員と話し合いを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から個別に面談し、相談・意見を聞き、運営に反映するよう努めている。	朝夕の申し送り時や施設長や管理者が必要と感じた時は個別に話すこともある。職員の意見や家庭状況に応じて、個別の勤務時間や全体の勤務体制の見直し等を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社時に本人の希望を取り入れることで、働きやすくなるよう努めている。入社後も、希望休を取り入れたたり、個々の要望に沿えるよう調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格を取得できるよう、勤務調整を行っている。勉強会、研修には交代で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡会の会議、勉強会に参加し、他業者との交流を図っている。しかし、コロナ禍になってからは難しい状況にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なこと、要望等に耳を傾けることによって、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望、不安に耳を傾け、安心して過ごしていただけるよう努めている。その後も密に連絡を取り、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人に合ったケアを提供することで、ご本人、ご家族の思いを取り入れるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と家事を行ったり、話をすることで関わりながら、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに気軽に立ち寄っていただけるよう密に連絡を取り、コミュニケーション作りをしている。ご家族様と共に入居者様を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人への電話・手紙の支援、ホームに気軽に立ち寄っていただけるような雰囲気作りを心掛けている。関係が途切れないように支援している。	馴染みの人への電話の取次ぎ支援や手紙のやり取り支援などを行っている。職員と自宅周辺へドライブし、自宅を眺めるなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から良い関係が築けるようにサポートしている。行事を通して、皆で楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの関係を大切にし、ご相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話を伺う機会を作り、意向や希望を把握するよう努めている。	日々の関わりの中で利用者の仕草や表情から把握し、新しい情報は申し送り時に職員が各自メモするほか、個人別申し送りファイルを毎朝職員が確認することで共有している。また、管理者と職員は常に話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族などからの聞き取りや、前ケアマネからの情報、サマリーなどから把握し、これまでの生活や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、バイタルチェック、申し送り等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望、意見を伺い、職員間での意見交換を行い、それらを反映した介護計画を作成している。	半年ごとの担当者会議で職員と話し合いをし、詳細なアセスメントを3か月ごとにケアマネジャーが行っている。利用者や家族等の要望、状態に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録からの日常の様子、申し送りでの情報の把握で共有し、ケアに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況を捉え、多様なニーズに柔軟に対応し、提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しの活用、商店街の利用等を通じ、地域の人たちとの交流を深められるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を大切にしながらかかりつけ医を決めている。専門医の受診時には情報提供をし、適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医療期間による往診がある。メディカルネットワーク(SNS)に訪問看護の記録が掲示され、利用者の容態に応じてすぐに相談ができる24時間体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が来訪。一人ひとりの日常生活、症状を報告書にまとめ、情報提供を行い、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、病院関係者と密に情報交換をし、早期退院に向けての支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合や終末期の対応について、同意書・指針の説明をし同意を得ている。ご本人、ご家族の意向を取り入れ、緊急時には医療関係者と連携し対応している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」にて説明をし、入居時に同意を得ている。看取りは行わず、医師や看護師の判断で他事業所や病院への紹介を行っている。訪問看護による緊急対応の研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えて、消防署の指導の下、救急救命の講習や看護師による勉強会も行っている。マニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、事業所全体での避難訓練を行っている。緊急時の連絡網も作成しており、連絡訓練も行っている。災害備蓄品も用意し、一覧表も作成している。	夜間想定を含む避難訓練を行っている。訓練後は反省を記録に残しているが次回に向けた課題を残すまでには至っていない。災害に備えて備蓄品を保管している。	防災訓練後の反省会での次回に向けた課題も記録に残して欲しい。また、コロナ禍における避難方法を消防団や消防署に相談し、利用者の安全確保に繋げて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、態度、接し方に気を付けている。訪室の際はノック、言葉かけを行って入室している。排泄の際、プライバシーに配慮して対応、失敗時には言葉に気を付けている。	管理者と職員は利用者に対して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。人権尊重や守秘義務について、管理者と職員は月1回の職員会議や申し送りの中で話し合い意識を深めている。	肖像権に関する同意書の作成と定期的な研修を行うことでより良いサービスに繋げて欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が話しやすいよう雰囲気作りに努めている。言葉遣いや話す速度にも気を付け、自己決定できるよう、一人ひとりに合わせた対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調であったり、様子を見ながら一人ひとりのペース、気持ちを大切に、無理強いせず、希望に沿った毎日を送れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室を利用している。好きな洋服を選んでいただいたり、少しでも楽しい気分になれるよう整髪したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を一緒に行ったり、テーブルを拭いていただいたりしている。行事の際には希望を聞いたりして、特別メニューを提供している。	各ユニットごとに利用者に合わせて味付けや調理方法を検討している。行事は特別メニューで、月1回は「お楽しみ」のメニューで利用者の食べたい物を職員が買い物に行き提供している。利用者の状態に合わせて形態を変えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を毎日チェックしている。水分があまり取れていない時は、こまめに提供するようにしている。食事量が少ない時は、嗜好品を提供することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けで、一人ひとり寄り添った口腔ケアを行っている。見守りや介助を全員で行っている。異常時は、受診や訪問診療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録している。声掛けや誘導で、トイレで排泄していただいている。安心してできるように配慮している。夜間帯も一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行っている。	できるだけトイレでの排泄を支援している。夜間もナースコールや時間での誘導を行うことで入居してから布パンツで生活ができるようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表から、職員全員が状況を把握している。歩行運動を勧めたり、マッサージを行う場合もある。ヨーグルトを毎朝提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を見ながら、利用者様の希望に沿うように固定した日にせず、柔軟な対応をとっている。	入浴は16時位までできるようになっており、柚子湯・菖蒲湯・入浴剤等利用者の希望に応じて対応している。また、脱衣所にはエアコンが設置されており、利用者が安心して入浴ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、明るさ、寝具を一人ひとりの好みに合うよう対応し、ゆっくり休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にファイルしており、変更時は申し送りノートで把握できるようにしている。変更後、何か変化が見られた時には、医師、看護師、薬剤師に報告している。スタッフ全員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた役割、楽しみごと、気分転換を行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿って外出支援をおこなっていたが、現在はコロナ禍で難しい状況である。日光浴、ドライブなどは行っている。状況によっては、ご家族様の協力を得ている。	中庭での外気浴や駐車場で花火大会、ドライブにて花見(桜等)。事業所主催の祭りでは縁日風に飾り付けを行い屋台風を用意したり、新たに入所した利用者の歓迎会を行ったりしている。イベントは各ユニットごとに行い、利用者の感染対策としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理している。必要時にはお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも電話を使用していただいている。子機を使用し、居室でゆっくりお話ができるようにもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔、安全に配慮している。心地よく過ごすことができるよう、環境整備にも努めている。季節ごとに花、写真等を変えている。	玄関には椅子が置かれており、利用者が靴を脱ぎ履きしやすい環境になっている。また、苦情相談窓口や関係書類が掲示されており、家族等に公開されている。食堂兼居間は中庭を中心にして各ユニットがあり中庭は利用者の交流や気分転換に利用されている。壁には手作りの作品や季節の貼り絵(手作りの作品)が掲示され、テレビやソファを中心にした寛げる空間になっている。非常口にはスロープが設置され車椅子の利用者も安全に避難ができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人とゆっくり過ごしていただけるよう、リビングにはソファ、中庭にはベンチを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族様と相談し、使い慣れた物やお好みの物を持ってきていただいている。	空調設備の温度管理は利用者一人一人に合わせて管理しており、全ての利用者が自室で快適に過ごせるように支援している。また、避難経路を確保するための環境整備を行っている。利用者はそれぞれ馴染みの品を持ち込み、居心地の良い空間になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面所で使用するものは、色分けしてわかりやすいようにしている。状況に応じた環境整備に取り組んでいる。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームいちさと筑波

作成日 令和4年12月12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災訓練後の反省会での次回に向けた課題も記録に残して欲しい。また、コロナ禍における避難方法等を消防団や消防署に相談し、利用者の安全確保に繋げて欲しい。	防災訓練後の反省会での次回に向けた課題を記録に残す。コロナ禍における避難方法等を消防団や消防署に相談する。	次回の防災訓練から、反省会での次回に向けた課題を記録に残すようにする。また、コロナ禍における避難方法等について消防団や消防署に相談し、ご指導をいただく。	次回訓練より
2	36	肖像権に関する同意書の作成と定期的な研修を行うことでより良いサービスに繋げて欲しい。	肖像権に関する同意書を作成する。また、定期的な研修を行う。	肖像権に関する同意書を作成する。また、研修を定期的に行っていく。	6ヶ月
3	4	運営推進委員からの意見があがりやすい方法や手段の検討を行い、より良い運営に繋げて欲しい。	運営推進委員からの意見があがりやすい方法や手段の検討を行う。	運営推進委員からの意見があがりやすい方法や手段を職員一同で検討し、実践に繋げていく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。